



孫子の兵法

(彼を知り、己を知れば、百戦殆からず)

4月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022年4月11日(月)

孫子の兵法の著者は二人いるという。

一人は、「孔子」とほぼ同じ時代の「孫武」、もう一人はそれから約100年後、「孟子」と同じころの戦国中期に活躍した「孫臏」である。

1972年7月山東省で発掘されたか墓から、「孫子兵法」とともに「孫臏兵法」の竹簡が現れ二人の「孫子」が活躍したことが解った。

「孫臏」は、戦国の雄「齊の威王(前356-320在位)」に仕えた軍師である。齊は建国以来800年、現在の山東省に栄えた強国であった。

華北平野に隣接する齊、韓、魏、趙は、微妙な対立をしていた。

中でも、齊と当時の最強国魏が死闘した「桂陵之戦」と「馬陵之戦」は世紀の対決であった。

「趙の首都邯鄲」が魏から攻撃を受け、趙から齊に救済の要請があった。

齊の威王は要請を受け入れ、「將軍田忌」と「軍師孫臏」に出陣を命じた。田忌が、魏に包囲された邯鄲救援に向おうとするのを孫臏が止めて言った。

「邯鄲に向うのは止めましょう、今なら、魏の全軍が邯鄲に集結して、留守になっている魏の首都大梁の方を攻めましょう。」

邯鄲と大梁の間は数百キロも離れていたが、首都大梁の齊軍の攻撃の報に接し、邯鄲の魏軍はやむなく大梁へ向けて引き返した。それを大梁付近の

「桂陵」で待ち受けていた齊軍が、邯鄲攻撃で疲れていた魏軍を大破した。

後日、孫臏は「魏がそのまま邯鄲を攻めておれば、実力に勝る魏軍は確実に攻め勝つことが出来たでしょう。そして邯鄲戦勝の後に、その勢いで大梁へ攻め寄せれば、我々齊軍も勝つことは出来なかったでしょう。」と言ったという。戦いは正に落着きと深謀遠慮が大事ということだ。

その13年後の「馬陵之戦」においても孫臏の計により、將軍田忌は魏の軍勢を谷間に誘い込み、魏軍を潰走させ、それまで戦国の雄と言われた魏はそれ以後、戦国の競争から脱落した。

戦争は、他のどんな社会現象にもまして、見通しを立てにくいものだ。

つまり、その動きは、必然的であるというよりむしろ蓋然性に支配される点が多い。

しかし、その戦争も人間の思い及ばぬ神秘的なものではなく、それなりの法則性を持つ社会現象である。従って、孫子の「彼を知り、己を知れば百戦殆からず」という命題は、やはり科学的な真理と言える。